

医学生と民医連の  
情報誌

◎ SAKA  
*medi-wing*

65  
2015

# 学 び の 旅

人として  
医師として  
戦争を考える

Doctor

Peace

war

human

*Journey of learning*  
*Learn about the war*

# 学びの旅

第二次世界大戦終結から70年を迎えた今年の9月、集団的自衛権の行使を可能とする安全保障関連法案が可決成立しました。

この法案をめぐるのは、憲法違反であるとの指摘や、日本が外国の戦争に巻き込まれるとの懸念から、従来の枠を超えた大きな反対運動が起こりました。

大きな歴史の転換点を迎えたこの夏、医学生が学びの旅に出ました。

東京大空襲・戦災資料センターでお話を聞き、靖国神社をめぐる中で、第二次世界大戦について考えるとともに、医師として戦争と平和をどうとらえるべきなのか、<sup>どうか</sup>東葛病院の大野副院長にもお話をお聞きました。

写真：東京大空襲

*Journey of learning  
Learn about the war*



旅の  
スケジュール

東京大空襲・  
戦災資料  
センター

靖国神社

大野副院長  
のお話



竹内 静代 (Shizuyo Takeuchi)

1931(昭和6)年3月5日生まれ。

1945年3月10日、中学2年(14歳)の

時に東京大空襲を体験。

現在は、東京大空襲・戦災資料センターや、学校などで当時の体験を語る活動を行う。

の周りに火が迫ってきたので、防空壕を出て逃げることにしました。

私たちは、一晩中火のないところを探して逃げ回り、朝になって家の様子を見るため葛西橋を渡って家のほうに向かって歩き始めたのですが、反対側から人がぞろぞろ歩いてやってくるのです。みんな目はうつろで、服はボロボロ、顔はすすけて髪の毛は焼かれて縮れています。私たちはそんな人の流れに逆らい家のほうに進んでいきます。そして葛西橋のたもとに来たとき、橋の向こう側一面が焼け野原になっているのが目に飛び込んできました。昨晩の空襲で一面が火事になっていたのは知っていたのですが、まさかこんなにひどい状況になっているとは思いませんでした。

なんとか家にたどり着いたのですが、家はすっかり焼けてしまっても残っていませんでした。あたり一面には焼夷弾が地面に突き刺さったり、転がっていました。

当時の私は、「お国のために」、「戦争に勝利するために」国につくすことは当然と考えていたのですが、この頃には私の頭は戦争は怖いという気持ちでいっぱいでお国のためになんてことは吹っ飛んでいました。

家を失った私たち家族は、東京を離れ、父の郷里の島根県に行くことを決めました。東京駅に向かって歩いて行くうちに、焼死体が目につくようになってきました。死体の焼け

たにおいも漂ってきます。炭のように炭化した死体もたくさんありました。多くは逃げ遅れた母親と子どものものでした。トラックにスコップで死体を積み上げていく光景も見ました。男性は兵隊にとられて人手不足だったため、中学生や囚人が動員されていたようです。



炎の中を家族で一晩中逃げ回ったと話す竹内さん

そんな景色を見ながら、睡眠もとらず、飲まず食わずで東京駅まで歩き続け、ようやく島根県に避難することができました。

記憶が薄らいでいる部分もありますが、焼死体をたくさん見たことや、死体から漂うにおい、焼け出されて、身も心もボロボロになって茫然とした表情で避難する人たちのことは忘れることができません。

## 人として医師として 戦争を考える

竹内静代さんのお話

私は、昭和6年生まれです。中学3年で終戦を迎えるまでは、戦争のない生活を経験したことはありませんでした。

終戦は疎開先の島根県で迎え、その後、家族3人で東京に戻りました。

「あなた生きていたのね、どこにいたの？」女学校に戻った時、かわされていたこの言葉が私の心の奥深くに残っています。あの頃、そうやって生きていることを理屈抜きに喜び合ったことが、今の私の平和への思いの原点です。

### 一晩中逃げ回った、戦火の中

昭和20年2月25日の空襲で、私たち家族は家を失い、知り合いの家に身を寄せていました。その知り合いが、東京は危険だということで田舎に引っ越すことになり、家をいただくことになりました。

「これでやっとやり直せる」と思った3月9日の夜から10日の未明にかけて344機の米軍機の空襲で、東京の町は一夜にして一面焼け野原になってしまったのです。

その日、夜11時過ぎに警報が鳴ったので家族で防空壕に避難していたのですが、防空壕の周りに火が迫ってきたので、防空壕を出て逃げることにしました。

私たちは、一晩中火のないところを探して逃げ回り、朝になって家の様子を見るため葛西橋を渡って家のほうに向かって歩き始めたのですが、反対側から人がぞろぞろ歩いてやってくるのです。みんな目はうつろで、服はボロボロ、顔はすすけて髪の毛は焼かれて縮れています。私たちはそんな人の流れに逆らい家のほうに進んでいきます。そして葛西橋のたもとに来たとき、橋の向こう側一面が焼け野原になっているのが目に飛び込んできました。昨晩の空襲で一面が火事になっていたのは知っていたのですが、まさかこんなにひどい状況になっているとは思いませんでした。

なんとか家にたどり着いたのですが、家はすっかり焼けてしまっても残っていませんでした。あたり一面には焼夷弾が地面に突き刺さったり、転がっていました。

当時の私は、「お国のために」、「戦争に勝利するために」国につくすことは当然と考えていたのですが、この頃には私の頭は戦争は怖いという気持ちでいっぱいでお国のためになんてことは吹っ飛んでいました。

家を失った私たち家族は、東京を離れ、父の郷里の島根県に行くことを決めました。東京駅に向かって歩いて行くうちに、焼死体が目につくようになってきました。死体の焼け



# 靖国問題

YASUKUNI MONDAI

靖国神社は、1869年に明治維新およびそれ以後の国内戦で戦死した人々を祀る招魂社として設立され、1879年に改称しました。第二次大戦時には、旧陸軍、海軍両省の管理下に置かれ、軍事的宗教施設としての色彩を強めています。

日本の敗戦で、GHQにより国家神道が廃止されると、靖国神社は宗教法人となり、国の管理から外れます。しかし戦前の軍事的宗教施設としての性格は温存され、1978年にはA級戦犯として死刑ないしは終身刑で獄死した東條英機元首相ら14人を合祀します。

翌年、このことが発覚するとA級戦犯を合祀することへの批判とあわせて、総理大臣や閣僚が政府の肩書を持って靖国神社に参拝することに対して、「憲法第20条」の政教分離違反であるとの指摘や、過去の侵略戦争への無反省の表れであるとの批判が内外から寄せられるようになります。これがいわゆる「靖国問題」です。

靖国神社の敷地内には幕末以降の日本の戦争に関する資料を展示する「遊就館」があります。館内には本物のゼロ戦や、大砲、海軍が開発した特攻兵器である人間魚雷「回天」や、ロケット特攻機「桜花」が、誇らしげに展示されています。

なかでも「大東亜戦争」に関してはかなりのスペースがさかれています。一般には、「太平洋戦争」と呼ばれるこの戦争を、「大東亜戦争」と呼ぶのは、靖国神社がこの戦争を『欧米諸国（特に大英帝国・アメリカ合衆国）の植民地支配から東アジア・東南アジアを解放し、日本を盟主とする共存共栄の新たな国際秩序の建設「大東亜共栄圏」のための正義の戦争であった』と考えているからです。

展示資料の多くは、いかに日本が勇敢にたたかっていたかを紹介するもので、今日の日本が英霊の尊い犠牲の上に築かれているとの考えが強調されています。

しかし、実際は日本の戦死者230万人のうち140万人は餓死だったことがわかっています。多くの兵士は、日本からはるかに離れた戦地で、戦果を挙げることもなく餓死していたのです。また、誇らしく展示されている人間魚雷「回天」や、ロケット特攻機「桜花」も大半は目的を遂げる前に撃墜され、戦果を挙げることはありませんでした。

展示物は、戦争で犠牲となったアジア諸国の一般住民については触れておらず、戦争の悲惨さや、むごたらしさを紹介する展示や、資料もありません。

戦後70年を迎えた今年、終戦記念日である8月15日に、3人の閣僚、67名の国会議員が靖国神社に参拝、安倍首相は、自民党総裁名義で私費で玉串料を奉納しています。

## 医学生 の 感 想

●今回「学びの旅」に出た、愛媛大学5年生に感想を寄せてもらいました。

### 「貴重な二日間」

戦争はそんな社会的健康阻害要因の最悪味がないと思っています。社会には健康を破壊する要因があつて、これを解決しない限り、どんなにうまい手術で患者を助けても、また病気になるし、新しい病人が生まれてきて、きりがありません。そこを解決しないと自分が医師になつた意味がないと思っています。

戦争はそんな社会的健康阻害要因の最悪

医師にとって「平和」とは切っても切り離せない問題であると私は考えます。しかしなんとなく平和といつても果たして何が本当の平和なのかの判別は難しいものです。

そこで私は戦後70年の節目に当たる今年、休日を利用して、靖国神社や東京大空襲・戦災資料センターを訪ね、そして平和について活動されている東葛病院の大野医師に話

を聞かせていただきました。まずはじめに靖国神社についてですが、靖国神社はとても荘厳な雰囲気です、そこが戦争に向いた方々の心のシンボルであつたのも十分うなずけました。ここでは戦争の悲惨さだけではなく国のために死んでいった先人たちの想いなども知ることができ、また違う視点で戦争というものを深く考えさせられました。次に東京大空襲・戦災資料センターについてですが、この施設は公式ではなく民間の施設ということでしたが、立派な施設で多くの展示品があり、東京大空襲についてはもちろん、戦争そのものの残酷さや虚しさやひしひしと伝わってきました。特に竹内さんのお話

の中で、「どんな理由があろうと戦争を体験した私達は戦争を肯定することはできない。戦争は多くの人を不幸にするのだから」という言葉がすごく印象的でした。最後に大野医師の話についてですが、社会には負のスパイラルなるものが存在し社会的健康阻害要因がその前提にあります。その最たるものが戦争であると先生はおっしゃられ、すごく共感しました。医師が助けるのは命だけではなく、健康そのものではないのが、先生のおっしゃる社会的健康阻害要因を未然に排除することなのではないでしょうか。これらのそれぞれに対し、感じたことは、

実際に自分の目で見体験することの重要性です。ある媒体を経て自分に入ってくる情報は必ずしも真実とは限りません。またそれが真実であっても第三者に都合よく脚色されているのかもしれない。下級生のときに、このことには気付いてはいたのですが、今回改めて何事も自分で体験しうることの重要性を再確認しました。そしてやはり「平和」についてなのですが、少し私なりの見解を深めることはできたものの、まだまだ考えていかなければすぐに答えが出せるものではないかもしれません。これから医療者として生きていくうえで、探し求め考え続けることで、わかってくることなのではないかと思えます。



## 大野 義一郎 (Oono Giichiro)

東葛病院副院長。北海道大学82年卒。現在、がん治療認定医機構暫定教育医、国立極地研究所客員教授(医学研究)、日本外科学会指導医。

### 大野 義一郎 医師のお話

#### 病院で戦争法案の学習会を実施

2009年、「派遣切り」が話題になった頃、年末駅前相談活動を開始し、6年続けしてきました。200人以上の方が相談に来ました。相談の内訳は、生活が苦しい、会社を解雇された、仕事が見つからないなど生活や仕事の相談が多く、医療面ではメンタルトラブルや糖尿病、交通事故の後遺症など長期にわたる治療が必要な相談が多い。また、病気になる仕事がなく生活でも困っている、逆に仕事がなくと病院に行けず病気が悪化するという悪循環があることがわかってきました。

そんなときに、今度の戦争法案が出てきました。まずは、自分たちの東葛病院で戦争法案の勉強会をやりました。外部から講師を招いたのですが、集まったのはたった6人。でもこの学習会を通じてこの法案は大きな問題だと思ふようになり、まず、医局会議で戦争法案反対の決議をあげてことを提案しました。

医局では、これまで戦争の問題とか政治の問題に決議をあげたことは今までありませんでした。提案すると、次々に賛成意見が出て決議。医局会議で決議があがると病院が変わりました。理事会や看護部など、いろんな職場で反対決議があがり始めました。

「戦争したい人なんて誰もいない、誰かが声をあげると変わる」そんな手ごたえを感じました。

#### 学会で戦争法案反対の決議をあげる

日本社会医学学会に、東葛病院医局決議を送り、ぜひ学会総会で決議をあげましようという提案をしました。すると、学会事務局はこの提案を真摯に取り上げてくれ、総会で特別提案することになりました。7月26日、久留米で開催された日本社会医学学会の総会で、全会一致で採択されたのでした。

採択を受けて、学会の会員から様々な感想が出されました。「一会員が提案したことをきちんと議論してくれる学会はいい学会だ」という声、「この学会が戦争反対の決議をあげなかつたら逆に問題、よく提案してくれたい」という感想も頂きました。

医者は命の大事さを最も知っていて、命を守ることを仕事にしている。だから、内科医も外科医も、すべての医者が戦争は許さない声をあげよう。いくら患者さんを治療しても戦争で命を落とすようなことがあつては意味がないのだから。



鈴木 昇平 Suzuki Shohei

山梨大学 2005 年卒業。大阪民医連の耳原総合病院、西淀病院、東大阪生協病院で初期研修後、2010 年に家庭医療後期研修プログラム“なごみ”を卒業。現在大正民主診療所所長、西淀病院医局長。

は風邪です。多くは風邪だけ治せばいい。ところが、高齢者はそうはいきません。発熱のほか糖尿  
尿病を持っていたり、肺がんで手術したことがあったり、足は常に浮腫んでいたりとか、いろんな問題を抱えてやってくる。その他にも、例えばお金があんまりなかったり、お家が寒かったり、暑過ぎたり、介護してくれる人がいない、食べ物がないとか、いろいろな問題がある。問題は複雑化して、ケアするためには医師はいろんなことをしゃべらなといけない。こういう人たちがどんどん増えてきます。「診断して、薬を出す」とかいう治療だけではもう対処不能です。診断をしてお薬を出しても、おしっこの臭いがしているようなおじいさんは、お風呂を自分で入ったかどうかもわからないかもしれない、薬も、もらった瞬間に忘れる。飲まないのといつまでたっても治らずに肺炎になったりする。そういう人たちをケアするためには、家族がいるのかを確かめたり、介護サービスを使っているのかとか、ヘルパーさんとかケアマネさんなどに「薬を飲むように頼む」とか、そういうことをやってあげないと治療が成立しない。医師一人では無理で「医療チームの一員」にならないといけない。これからの時代、

医療者はコミュニケーションがとても大事です。プラスチックの技術かと思われ  
るかもしれませんが、医療の本質の一部はコミュニケーションだとさえ言えます。  
現場の例でいうと、ぜん息の治療で吸入ステロイドを吸うのは結構難しく、普通に使う吸入ステロイドは、うんとかさばるすするぐらい強く吸わないといけません。かなり勢いよく吸わないといけません。が、高齢の人たちの半分ぐらいいはちゃんとできていないと言われています。コミュニケーションが悪いと正しい吸い方も伝わらないし、へたをすると「べつにやらんでもええやん」と思われてしまいかねません。逆に「先生が熱心ないうからがんばって吸おう」となれば、患者さんのぜん息もどんどん良くなるし、次に来たときに患者さんが「先生、よくなった。ありがとう！」っ

診療所の紹介 /

大正民主診療所は1975年11月、地域住民と大正区で働く労働者が「自分たちの命と健康を守る」誓をつくるという熱い思いを結集して開設。献身的な医療を初代所長が貫き、地域の信頼が一気に広まりました。またいち早く訪問診療を行ってきた歴史があり、在宅医療は当診療所の特長でもあります。2011年からは大阪家庭医療センター副センター長の鈴木先生が所長に就任、これまでの医療を引き継ぎながら、地域医療研修、後期研修医の指導など医師を育成する診療所としても定着しています。2015年に40周年を迎えました。この年に国際HPHネットワークにも加盟し、患者、地域住民、スタッフの健康づくりにも力を入れています。

(次号につづく)

# きたる 超高齢化社会に備えて 必要とされる家庭医

はじめに

大正民主診療所というところの所長医師をして鈴木です。西淀病院の地域総合内科でも働いていて、そこで救急患者をみたり往診したりしています。38歳、小さな娘が1人います。趣味は少しさみしい感じと思われるかもしれませんが、熱帯魚集めで、オーストラリアとかインドネシアにいる鯛の仲間のレインボーフィッシュという種類がありますが、これだけの種類を揃えている人は僕が一番じゃないかと自負しています。

私は家庭医療の専門医でプライマリ・ケア連合学会に所属しています。家庭医療専門医というのは日本では、まだかなりレアな職種で、日本で数百人しかいません。大阪家庭医療センターというところがあり、そこ



のセンター長として主に後期研修医の教育をやっています。家庭医療センターにはピリーという大阪にちなみ、「命を持ったたこ焼き」の「ゆるキャラ」がいます。実際の症例を中心にお話いたしますが、その前に知っておいてほしいいくつかの事柄に触れます。

● 新しい専門医制度が始まる

2017年度から新専門医制度が始まります。19番目の専門医資格として総合診療医というのが新設されます。現在、専門医資

## なにわの 医療道場

大阪民医連の医療活動



皆さんがどんな分野に進まれるにしても、口ではいい医者にはなれないと僕は思います。皆さんは必ず医療チームリーダーにならないといけない。基礎に行ったら医療チームはなくて研究チームかもしれませんね。

● 医者に必要な  
コミュニケーション能力

医療者はコミュニケーションがとても大事です。プラスチックの技術かと思われ  
るかもしれませんが、医療の本質の一部はコミュニケーションだとさえ言えます。  
現場の例でいうと、ぜん息の治療で吸入ステロイドを吸うのは結構難しく、普通に使う吸入ステロイドは、うんとかさばるすするぐらい強く吸わないといけません。かなり勢いよく吸わないといけません。が、高齢の人たちの半分ぐらいいはちゃんとできていないと言われています。コミュニケーションが悪いと正しい吸い方も伝わらないし、へたをすると「べつにやらんでもええやん」と思われてしまいかねません。逆に「先生が熱心ないうからがんばって吸おう」となれば、患者さんのぜん息もどんどん良くなるし、次に来たときに患者さんが「先生、よくなった。ありがとう！」っ

格は、内科、外科、小児科、耳鼻科など18領域ありますが、その横に総合診療というのできるの、新専門医制度では内科と総合診療のライセンスを同時に持ついたり、どちらかを持たなければいけないという風になります。  
家庭医は海外ではかなりメジャーな存在です。アメリカでは医師の半分ぐらいがプライマリ・ケアに習熟した家庭医が占めています。私が取得している家庭医療専門医というのは、新専門医制度では総合診療医に移行します。

● 超高齢化社会の中で医師になる世代

もう1つは皆さんのこれから働く日本の状況です。皆さんが第一線に立つ10年後には高齢者人口3500万人、全人口の約30%、3人に1人が高齢者ということが起こる中で、皆さんは医者をやらないといけません。高齢者にとっても医療というのは非常に重要で、その人の命と生活を左右するものです。皆さんは特にこの問題がどういふことが考えておかなければなりません。

● 超高齢化社会が  
医師に求めるものは何か

僕は家庭医なので小児も診ます。子どもさんが熱を出して来院した場合、たいてい

ていう。そうしたら皆さんもやる気が大丈夫。す。「ああ、よかった、また勉強しよう」と思う。スタッフのやりがいを保つためには患者さんのためにもとても重要ですが、様々な社会経験や場数を踏む中で身に付くことなので、学校の勉強以外にも学生時代にしかできないようなことは是非チャレンジしてみてください。

耳原総合病院 栗山政士

Masashi Kuriyama

僕は、今は耳原総合病院で研修を... 8か月は西淀病院で研修をしていまし...

こと。いつも長男さんか次男さんがそ... ばにいてくださったこと。訪問看護の...

げましたが、この文章を書いている間... にたくさんのお患者さんの顔が浮かん...

栗山政士 PROFILE ●京都府出身。高知大学医学部... 2013年卒。2014年～西淀病院で初期研修開始。現...

人として向き合ってきたからこそ、得られる感動



KONAMONS

大阪府

大阪大学医学部医学科2回生の趙... 聖和です(写真中央)。今回は、全...



切磋琢磨できる友だちです

の前で発表する良い機会である分科... 会、競争体験者の方々のお話をお聞...

学生企画と一緒に参加し... たり、メンバー同士で自...



学校名、学部・学科・専攻、氏名と合わせて、「KONAMONSに興味がある」と記載して、sonfasonsonfa@gmail.comまでご連絡ください。



## 国試対策にも役立つ なるほど道場



**田下 大輔**  
Tashita Daisuke  
耳原総合病院 研修医

初めまして、大阪府堺市にあります耳原総合病院で初期研修医1年目として働いている田下と申します。医学生時代はゴルフ部・野球部・軽音楽部に所属し全力で青春を謳歌、勉強や他大の学生との交流にも全力で取り組みました。「何事にも全力で」のキーワードが今の自分を形作っていると思います。医学生は試験なども大変ですが、自由に使える時間もたくさんあります。怠惰にならず、遊ぶのも全力で、勉強するのも全力で取り組めば人生が豊かになる…かも。問題には私なりのメッセージを込めていますので、味わって解いてみてください。

**PROFILE** ● 近畿大学2015年卒業。学生時代は学内で4つのクラブ活動を掛け持ちする傍ら、関西圏の様々な大学が集まる学生主体の勉強会「TEAM関西」の代表を歴任。現在、耳原総合病院1年目の研修医として勤務。また医学教育にも情熱を注いでいる。

### 応募方法

応募締め切り：2016年2月29日(月)

E-mail送り先：[igakusei@oskmin.com](mailto:igakusei@oskmin.com)

「なるほど道場」プレゼント係

● 大阪民主医療機関連合会 (大阪民医連)  
〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-8 創建本町ビル2階 TEL: 06-6268-3970 FAX: 06-6268-3977

応募方法：①～③までの答えを明記し

「お名前」「ご住所」「電話番号」「大学名・学年」「取り上げてほしい記事」を記入し、左のE-mailアドレスまで送信してください。ご不明な点は下記までお問い合わせください。



facebook「大阪民医連医学生ページ」は、皆さんに当会の取り組みを知ってもらうために担当スタッフが様々な記事を絶賛配信中です。イベントや病院見学など、皆さんにも有益なお知らせを散りばめています。

気に入った記事があったら、ぜひ皆さんの「ええやん!」をお願いします。



大阪民医連医学生ページ 検索

国試対策も役立つ問題を3問出題します。正解者の中から抽選で10名様に「Quoカード1000円分」をプレゼントします。当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。クイズの正解は次号で発表します。

締め切り 2016年2月29日(月)

### 今月の出題

Q1 日本人の死因の第3位は？(2012年)

- a 心疾患
- b 脳血管疾患
- c 肺炎

Q2 院内心肺停止のとき、除細動の適応になるモニター波形はどれ？

- a 心静止 (asystole)
- b 無脈性電気活動 (PEA)
- c 心室細動 (VF)

Q3 日本人における喫煙者の割合は？

- a 男性 20% / 女性 5%
- b 男性 30% / 女性 10%
- c 男性 40% / 女性 15%

大阪民医連では医師を目指す医学部のみなさんを応援しています。そのため、各大学医学部の近くに医学生サポートセンターを設置しています。

大阪民医連に加盟する病院・診療所・関連施設での見学、奨学金制度、ボランティア等の各種セミナー・企画のご紹介など、医学生の方の学生生活のサポートなどを目的として活動しています。

また、定期的に学習会や情報提供などの活動を行っています。専任スタッフをはじめ、企画にこられる現役医師や職員があなたの進路に関する悩みや不安の相談にもなります。お気軽にご利用ください。

狭山サポートセンターの魅力を紹介します。

### 1 ナイトミーティングで学習会!

大学で学ぶこと以外に医師を目指す上で知ってほしいことや、学生の要望に応じて学習会を開いています。例えば、介護保険学習会や小児往診事例報告会、法律についてなど様々なジャンルから開催しています。時には映画鑑賞会を開く事も…。



### 2 自習スペース・書籍も多数!

医学生を支えるサポートセンターでは、ネット環境完備の自習ができるスペースを備えています。また、先輩医学生やサポートセンターに出入りする人たちが残していった書籍も自由に貸し出しています。

### 3 毎週火曜・水曜はランチ開催!

下宿生の多い近畿大学医学部の学生に、栄養バランスのとれた食事をとってもらって勉強の励みにしてもらおうべく、昼食を作って提供しています。時には、友の会や組合員さんが栄養たっぷり、野菜たっぷりの家庭の味をふるまってくれますので是非期待しておいてください!

○ 気になる方は、ぜひご連絡ください

大阪民主医療機関連合会 (大阪民医連)  
〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-8 創建本町ビル2階  
TEL: 06-6268-3970 FAX: 06-6268-3977  
Mail: [igakusei@oskmin.com](mailto:igakusei@oskmin.com)

[www.oskmin-igakusei.com](http://www.oskmin-igakusei.com)

### 「友の会、組合員さんってなに?」



民医連の病院、診療所には法人形態の違いによって(生協の)組合員、友の会という組織があります。いわゆる「患者会」ではなく、健康な人も数多く参加して、事業所の運営や、医療活動、地域の健康づくりの活動をともに進めています。現在全国に359万の仲間が元気に活動しています。

私たちは  
おおさか民医連  
Osaka Min-iren



大阪民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です。2013年、連合会設立60周年を迎えました。現在、4つの病院、49の診療所、7つの歯科診療所、2つの老健施設、22の訪問看護ステーション、33の保険薬局、そして1つの看護専門学校が、大阪民医連に加盟しています。病院・診療所での実習を、随時受け入れています。

奨学金  
制度

大阪民医連では、いつでも、どこでも、だれもが安心してよい医療を提供できる医療機関を目指しています。私たちの医療活動に共感し、ともに働く意思のある方を対象に奨学金を貸与しています。

●対象学年と奨学金

1~2年生 50,000円

3~4年生 60,000円

5~6年生 70,000円

大阪民医連の病院紹介 (詳細は各病院のHPをご覧ください)



臨床研修  
指定病院

耳原総合病院 (病床数 386床)

- 大阪府堺市堺区協和町4丁465 TEL.072-241-0501(代)
- 南海高野線堺東駅よりバス10分



臨床研修  
指定病院

西淀病院 (病床数 218床)

- 大阪市西淀川区野里3-5-22 TEL.06-6472-1141
- JR東西線御幣島徒歩5分



東大阪生協病院 (病床数 99床)

- 東大阪市長瀬町1-7-7 TEL.06-6727-3131
- 近鉄大阪線長瀬駅徒歩3分



コープおおさか病院 (病床数 166床)

- 大阪市鶴見区鶴見3丁目6-22 TEL.06-6914-1100
- 地下鉄長堀鶴見緑地線今福鶴見駅徒歩4分

